
高校生の異世界英雄譚

阿修羅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高校生の異世界英雄譚

【Nコード】

N6981K

【作者名】

阿修羅

【あらすじ】

自らを神と名乗る男によって召喚された主人公、召喚された場所で大変なことに巻き込まれて！？

とんでもない力を与えられた主人公がいろんな困難に立ち向かう異世界ファンタジー物語！

ブログ 召喚（前書き）

初投稿です。

文章力のない作者ではありますが、どうかよろしく願います！
誤字脱字があったら報告お願いします。

プロローグ 召喚

俺、頭がおかしくなったのか？

いや、だって俺以外の誰もいない部屋で、いきなり目の前に神を名乗る男が現れたら、誰ってそう思うだろ？

「まあ、そうだよねえ。いきなり神って言われても信じるような力は流石にいないなあ。」

そりゃそうだ。アイアムゴッド！とかいきなり言われても、頭がおかしい人しか思われねえよ。

「だよねえ。でもさでもさ、君しかいない部屋に目の前でいきなり現れたって言うなら信じるしかないでしょ？」

そつだが・・・って人の心を読むな！

「だって、心も読まれたら信じるしかないじゃん？」

確かに、ここまでされたらな・・・。

「ああもう分かったよ。神なんだろ？はいはい。で、その自称神様が俺に何の用？」

「よくぞ聞いてくれた！今から君を異世界へと召喚することになりました！といことで、いつてらっし「ちよつと待てーい！」」

はい？異世界へ召喚？おいおい、いくらなんでも神だからって許されないことがあるだろ？

「しょーがないじゃん、神議会で決まったことだし。」

シンギカイ？なんだそれ？知らねえもんで決められて、ハイソウデス力って言うとも思ってたの！！？

「もう、うるさいなあ。いいじゃん、神に等しい能力も与えられるんだよ？つべこべ言わずにさっさと行け」「行くわけねえだろ！！」「」

冗談じゃねえ！まだまだやりたい事が山程あるのに、そんな易々と異世界に行けとか、ふざけんな！

「はあ、強引なのはイヤなんだけどなあ。」「は？」「ゴメンねえ！！」「」

ドカツ！

目の前が真っ暗になった。

第一話 魔王（前書き）

プロローグで主人公の名前を出し忘れてました↑アホ

ダメな作者でスイマセン。

タイトルに魔王ってでてるけど、魔王についてはちょっとしか触れてません。↑死

「わかればよろしい。それでは、君を召喚した理由を説明するとしよう。」

召喚する前に言えよ……。

「ここヴァルフォニアは、たくさんの人と魔物たちが住んでいて、それぞれが干渉し合って均衡を保っていたんだ。ところが、ここ最近になって魔物が異常に増えはじめて、バランスが崩れはじめたんだよ。」

ちよつと待つて。魔物つて……魔物とかいんの！？

「うん、たくさんいるよ！。ドラゴンとかスライムとかミノタウロスとか。」

マジかよ……。

「まあ、そこで神議会が調査したところ、魔王を名乗る人間が現れて魔物を大量に作ってたんだつて。」

「おい、つまりそれは俺に、その魔王とやらを倒せと言ってるのか？」

「おおっ！よくわかったね！正解だよ！」

「お断りじゃあああああああ！！」

なんで俺が倒さなきゃいけないんだよ！俺、たいした力ももってないし、戦いとかしたことないし、できるわけねえだろ！

「ノンノン、それができるんだよ！実は、君って魔力がすごく高いんだ！」

へえ、俺って魔力高いのか……って、な、なんだってー！？

「おまけに、異世界に召喚されたことによって、身体能力も格段にUP！それに加えて、神に与えられた、能力『創造』があるんだよ！」

「す、すげえええええええええええ！」

「ふはははは！すげええでしょ！すげええでしょ！？」

「すげえけど、『創造』ってどんな能力？」

「『創造』とは文字通り、なんでも作ることができる能力だよ！」

おい、ちょっと待て、それってチートすぎだろ。俺どんだけ強いんだ。

「そう！君はこの世界で最強なのだよ！！」

でも、異世界に召喚したことを許しはしねえぞ？

「チッ」

おい、今舌打ちした？舌打ちしましたよね！？

「いや、してないよ？」

舌打ちしたるおおおお！

「うるさいなあ。まあそういうことだから、後はテキトーにぼちぼちやっていってね。それじゃ、僕は仕事あるから。」

「は？お、おい！待て！テキトーにぼちぼちって・・・」「じゃあねく。」おい、待てゴルアアアアアアアアアアア！！」

行きやがった。あいつ、神なのに見捨てて行きやがった！俺、これからどうすりゃいいんだあああああ！？

|||||

神に見捨てられた俺は、とりあえず歩いていた。

くそ、どうすりゃいいんだ。

適当にやれって、このままじゃ食料とか寝床とかなんにもねえじゃねえか！

歩きに歩きまくっていると、なんだか向こうから騒がしい声が聞こえてきた。

「あつちに逃げたぞ！追え！！」

なんか、盗賊っぽい格好をした二人の男が走っている。その先には綺麗なドレスを着た女の子が走って逃げていた。盗賊っぽいというか、ホントに盗賊みたいだな。ホントにいるんだな盗賊。

あ、やばいな他の盗賊の男たちに囲まれちゃった。さすがに見捨てることはできねえしな。それに俺、最強だし。

「おとなしくしろよ。お前はかなりの上玉だからな。売ったら大金になるだろう。その前に、俺達でたっぷり相手をしてやるか、ヒヒッ！」

うわあ、悪人丸出しだな。

「き、貴様等！我を誰だかわかっておるのか！我はグラシア王国の第四王女ルシエルファ・フォル・ジェロード・グラシアであるぞ！」

「はっ！王女様だって？これはかなりの儲けもんだぜ！」

盗賊の男が笑い・・・めんどい、盗賊Aでいいや。盗賊Aが笑い、ルシエルファ・・・なんとかって女の子のアゴを掴んで、顔をあげる。なんかム力つく。

「おい、ちょっと待ちな。変態共。」

「だ、誰だ！？」

「俺？俺は通りすがりの高校生さっ！」

ジャンプして女の子のもとに行くとともに、盗賊Aの顔を思いつきり蹴る。

「ぐはあっ！」

「大丈夫？お姫さん？」

「・・・え？あ、ああ。」

顔赤いけど、暑いのかな？

「てめえ！なにもんだ！？」

「言っただじゃん、通りすがりの高校生さ！」

第一話 魔王（後書き）

中途半端なところで終るというオチ。

まだ主人公の名前は出ないです。

主人公の名前よりヒロインの名前が先に出ちまったぜ！

へへっ！やっちまったぜ！

ホント、ごめんなさい。

なぜ、中途半端なところで終わるのかというと、これから遊びに行くからだよ！

ちなみに三日間更新がなかったのは遊びに行ってたからだよ！↑バカマジでごめんなさい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6981k/>

高校生の異世界英雄譚

2010年10月25日00時30分発行